

縫合




道路と屋内共用部というパブリックな空間がガラスを挟んで並行して存在している。「座る」という動作を共有することで、空間が交差する。

象徴的生活感




ショーウィンドウによる街風景。普段は見えない人の生活感。二つの要素を掛け合わせ、代官山の街風景に生活感を表出させる。



何かを作りたかっただけだな笑。でもそんなもんだよね。渋谷 1000 にくっついてるオマケみたいなものだったから。百パーセント出せるわけでもないしね。3案とも全部気に入ってたし。マキさんが絡んでるってすごいよね

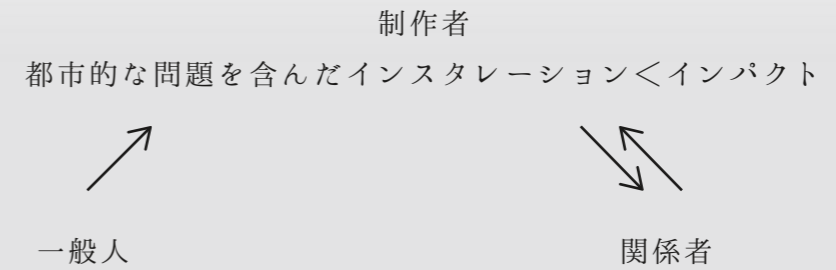
代官山はもっと個人参加で、研究というより純粋なインスタレーションアートよりで。博人さんも含めて小林研はアート専門の研究はしてないし、そういう手法の蓄積もないから、アート手法の勉強って意味もあるかな。



本プロジェクトの本質は都市に対して「インスタレーション」と言う手法で何ができるのか追求してきた気概にあり、都市の奥のそのまた奥を表出させようと試みたものである。

インスタレーションの奥

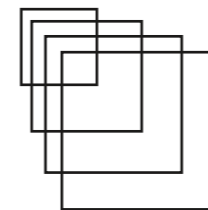
(1) 錯綜する思い



もっとも周囲になじんでいた作品。これはそのまま展示を続けてほしいな。これは新しい傾向かもしれない。

都市的なユーモアがあり、面白い作品

(2) 奥の思想



西欧の空間はある中心点を持つのに対して、日本の空間は奥へ奥へと向かっていく。例えば、教会は丘や山の頂上に象徴的に建てられることが多いが、神社は山の麓、森の奥に造られる。

槇文彦

(3) 思いの積層

人々の様々な「思い」にもまた奥があると思う。空間の中で軸で思いが錯綜し、絡み合う。そして、人の気持ちは揺らぎ易く伝わりにくい。積み重ねた思いの先に見える新たな「思い」があり、自身を顧みることができるのではないだろうか。

